

キコニアレター

2024.12.1 発行 No.37

コウノトリ野生復帰事業の着実な推進

～繁殖のさらなる拡大と課題～

【2024年9月19日 定例記者会見より】

2005年の初放鳥以降、野外コウノトリは順調に増加し、今年、新潟県上越市、千葉県野田市で新たに繁殖するなど繁殖地もさらに拡がり、全国14府県の51巣から134羽の幼鳥が元気に飛び立っていきました。日本の野外個体数(巣立ちした個体を計する)は、指数関数的な増加を示しており2024年8月31日時点で470となっています。個体数は、巣立ちに伴う5月から8月にかけての増加と、その後の死亡や個体の収容に伴う緩やかな減少により階段状に推移しますが、その階段が年々大きく顕著になっており、2024年は最小356個体から最大474個体に118個体増加しました。ただし、個体数の増加は新たな繁殖地域の増加によるところが大きいので、個体数の指数関数的な増加が今後も継続するとは限りません。今後の動向に引き続き着目していきます。



記者会見の様子



新規繁殖地：新潟県上越市での足環装着

一方、救護・収容をはじめ多くの取り組むべき課題があります。2024年度は、これまでに全国で12羽(うち県内8羽)が救護され、11羽(内県内6羽)が死体収容(巣立ち前の雛は除く)されています(2024/8/31現在)。救護や死体収容の原因として、防獣ネットや防鳥用テグスへの絡まり、送電線での感電など人為的な要因によるものが多く見られます。これらは、多くの事例において、捕獲・応急処置・一時収容・死因究明のための解剖等について、当園が地元自治体から相談を受け、地元自治体に対する助言や支援を行っています。コウノトリの繁殖地が全国に拡がってきたことに伴い、各都道府県におけるコウノトリの救護や死因究明のための体制作りの必要性が高まっています。全国規模で考えなければならない課題は、今後さらに増えていくことが予想されます。兵庫県立コウノトリの郷公園では、2024年3月に策定した「～コウノトリ野生復帰ランドデザイン～12年間の評価と今後の課題」を基に、コウノトリ野生復帰事業の研究拠点として、事業を着実に推進していきます。

	救護	死体収容	合計
兵庫県内	14羽	4羽	18羽
兵庫県外	7羽	10羽	17羽
合計	21羽	14羽	35羽

2023年度に救護・死体収容されたコウノトリの数

コウノトリの個体数 (2024.10.31 時点)

施設・拠点名	飼育			
	オス	メス	不明	計
兵庫県立コウノトリの郷公園	26	33	0	59
附属飼育施設コウノトリ保護増殖センター	19	18	0	37
養父市伊佐拠点	0	0	0	0
計	45	51	0	96

野外 カテゴリー	野外			
	オス	メス	不明	計
兵庫県放鳥	18	12	0	30
兵庫県野外巣立ち 野生個体	97	110	4	211
他府県放鳥	1	1	0	2
他府県野外巣立ち等	10	6	0	16
計	95	110	4	209
計	221	239	8	468

ブータン王国での シロハラサギ保全活動への協力



兵庫県立コウノトリの郷公園

主任研究員 松本 令以
MATSUMOTO Rei

2024年4月11日から18日の日程で、ブータン王国に行ってきました。ブータンでは、2021年に王立自然保護協会(RSPN)がシロハラサギ保全センターを設置し、シロハラサギの保全活動が行われています。シロハラサギは、国際自然保護連合(IUCN)が作成したレッドリストで「絶滅危惧種(CR)」に分類される世界的に希少なサギの一種で、インド、ブータン、ミャンマー、バングラデシュなどの山地の溪流に生息しています。世界全体の個体数は60羽以下とされており、絶滅寸前の状態です。このうちブータンでは約20羽が確認されており、同センターでも3羽が飼育されています。

兵庫県立コウノトリの郷公園は、RSPNからの要請に基づき、(公社)日本動物園水族館協会とともにシロハラサギの保全活動への協力を開始しました。シロハラサ

ギ保全チーム(代表・島野智之 法政大学教授)が獲得した助成金を活用して、携帯用孵卵器や温湿度計などの機材の提供、人工孵化・育雛に必要なビタミン剤やカルシウム剤の提供などの支援を行ったほか、現地を訪れ、育雛方法や治療方法などについて直接助言しました。

また、7月には、同センターの職員2名が来日し、東京の上野動物園や多摩動物公園で研修を行ったほか、コウノトリの郷公園でも鳥類の飼育・繁殖・検査・治療などに関する研修を行いました。

このような支援活動の甲斐あって、今年は2羽のシロハラサギの雛が無事に成長し、同センターの飼育個体は合計5羽になりました。将来の野生復帰を見据えて、今後も協力を続けていく予定です。

【シロハラサギ】
翼を広げた大きさは約2m



人工育雛で育てているシロハラサギの雛



シロハラサギ保全センター職員への研修



シロハラサギが飼育されている大型ケージ



シロハラサギ保全センターの職員たちとともに
(左から2人目は島野教授、左から6人目が筆者)



コウノトリの郷公園での血液検査の研修

野外コウノトリ400羽到達

大空を飛翔する優美なコウノトリの姿が、さらに日本の空に広がりました。2005年9月に5羽を初放鳥以降、野外コウノトリは自然界で順調に繁殖を繰り返してきました。12年後の2017年には100羽、その3年後の2020年には200羽、またその2年後の2022年には300羽に到達しました。そして、それから2年後の今年、400羽を超え、2024年10月31日現在で野外個体数は468羽となっています。

巣立った幼鳥が年間で100羽を超えたのも、昨年(12府県49巣繁殖し105羽巣立つ)に続き2年連続となり、放鳥20年を迎える来年には野外コウノトリは500羽に到達することが予想されます。巣立った割合を示す繁殖成功率も83.6%に達する予定で、繁殖のペースは加速度的に増えているなど、郷公園を中心に豊岡・但馬地域での、人にもコウノトリにも快適な環境づくりによる自然再生の取り組みが一定の成果をあげており、さらに、各地での取り組みに繋がっています。



2005年9月24日 試験放鳥



千葉県野田市 ※2024年新規繁殖地(野田市提供)



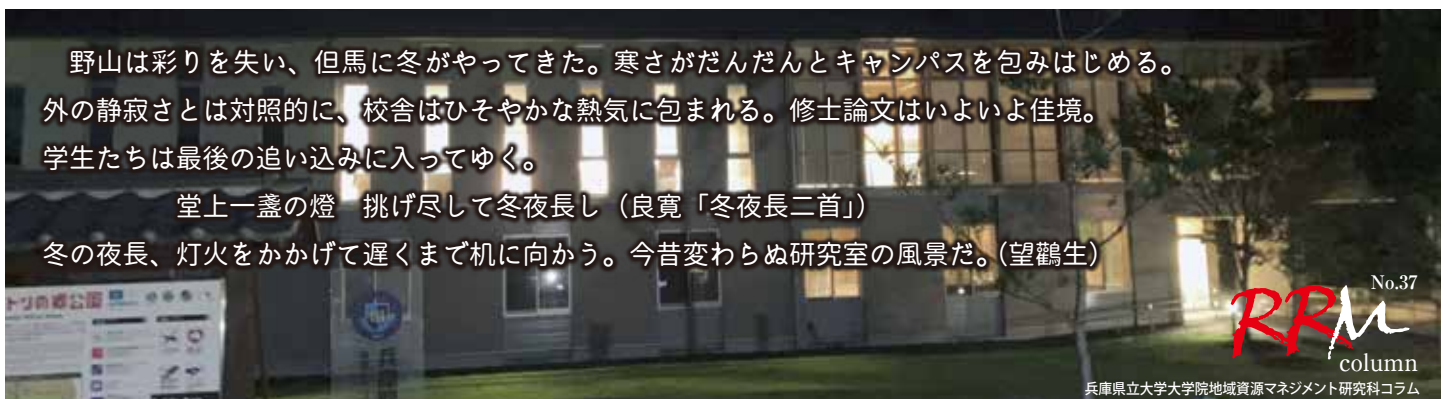
歴代の到達記念缶バッジ



新潟県上越市 ※2024年新規繁殖地

*2024年野外コウノトリの繁殖状況は、郷公園ホームページよりご覧いただけます。

https://satokouen.jp/downloads/0831_tp_hansyoku.pdf



野山は彩りを失い、但馬に冬がやってきた。寒さがだんだんとキャンパスを包みはじめる。外の静寂さとは対照的に、校舎はひそやかな熱気に包まれる。修士論文はいよいよ佳境。学生たちは最後の追い込みに入ってゆく。

堂上一盞の燈 挑げ尽して冬夜長し(良寛「冬夜長二首」)

冬の夜長、灯火をかかげて遅くまで机に向かう。今昔変わらぬ研究室の風景だ。(望鶴生)

各種イベントを実施しました

コウノトリ診療所 4/27(土)・7/28(日)

4/27には「世界獣医の日」の特別企画として診療所を公開しました。また、7/28には郷公園の獣医師が、獣医業務や野外でのコウノトリの事故とその対策などについての特別講義を行い、治療室や手術室、そして保護されたコウノトリを療養している検疫棟(普段は非公開)を見学していただきました。



特別ガイドウォーク 5/4(土)・9/22(日)

普段は立ち入ることのできない非公開の飼育ゾーンを、飼育員が各施設の特徴、コウノトリの生態や世話などについて説明しながら案内しました。繁殖ケージでは、目の前でコウノトリの給餌の様子をご覧いただきました。



コウノトリへのエサやり体験 5/5(日)・9/15(日)

飼育コウノトリの餌づくりや実際にケージに入っただけの餌やりを体験していただきました。毎回多くの皆様にご参加いただき、コウノトリ飼育への理解を深めていただくとともに、間近でその様子を観察できたと大変ご好評をいただきました。



サマーキッズデー 7/20(土)

キッズを対象にした飼育(エサやり)体験を実施しました。また、親子で参加する「スタンプラリー」も行い、コウノトリ文化館周辺から東公開エリアまでを巡りながら、夏の郷公園を楽しんでいただきました。



『約束のケージ』ガイドウォーク ～コウノトリ保護増殖の歴史にふれよう 8/4(日)

コウノトリの保護増殖と野生復帰の原点である附属施設「コウノトリ保護増殖センター」を特別公開し、約束のケージ等の施設見学をはじめコウノトリの繁殖技術についても紹介しました。



山陰海岸ジオパーク『砂の世界をのぞく展』 8/10(土)～8/12(月)

山陰海岸ジオパーク内の砂や礫を展示し、顕微鏡観察や鳴き砂体験などにより、地質の違いを体感していただきました。今回も「砂絵コーナー」を設け、大人から幼児まで思い思いの作品づくりを楽しんでいただきました。



開園25周年記念『郷公園デー』 10/19(土)～20(日)

郷公園開園25周年を記念して「クイズラリー」、「コウノトリ診療所」、非公開エリアを飼育員が説明する「コウノトリ野生復帰の舞台裏」、「飼育員によるバックヤードガイドツアー」を実施し、多くの方にご来園いただきました。



＜ふるさとひょうご寄附金＞

ふるさと納税でコウノトリ野生復帰プロジェクトを応援してください！

コウノトリの郷公園では、全国の皆さまのご協力を得ながらコウノトリの保護増殖と野生復帰に取り組んでまいりました。しかし、まだ道半ばの状態にあり、特に昨今では飛来地や繁殖地が全国的に拡大したことで、当園の技術的支援の必要性が高まっています。また、野外コウノトリの増加に伴い、事故等による救護個体の増加や近親婚の発生など新たな課題への対応や、遺伝的な多様性確保のための国内外の施設とのさらなる連携が重要となってきています。

これらの取り組みを進めていくためにも本プロジェクトへのご賛同・ご支援をお願いいたします。本プロジェクトの詳細内容は、ホームページに掲載しています。

申込方法

1 ふるさと納税ポータルサイトによる申込み

ふるさとチョイス



楽天ふるさと納税

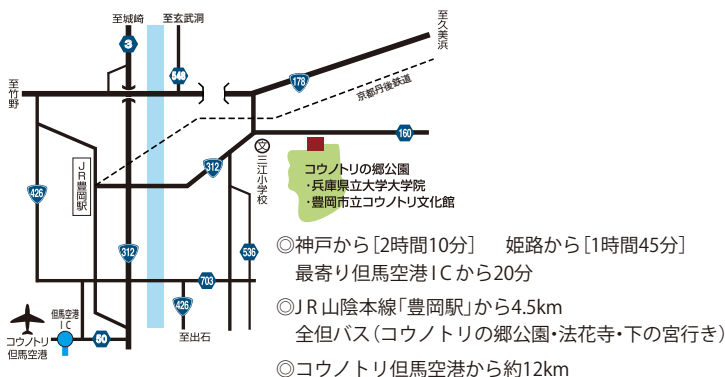


または

2 寄附申出書による申込み



ACCESS!



編集後記

日本各地で猛暑日が過去最多となるなど、今年の夏も記録的な猛暑になりました。祥雲寺ファミリーにはもちろん、見守る側にとっても心もとない厳しい試練でした。季節は移ろい今年も残すところ約1か月。年が明ければコウノトリにとっても巣作りを始める一年のはじまりです。

来年度は野生復帰への放鳥から20年が経過します。今後もFacebook等で郷公園やコウノトリの一年の歩みを情報発信する中で、コウノトリと人とのさらなる共生のために、魅力と現状をお伝えしていきたいと思っております。

(社会教育推進専門員 岡田厚志)



兵庫県立コウノトリの郷公園

Hyogo Park of the Oriental White Stork

兵庫県豊岡市祥雲寺 128 tel: 0796-23-5666 fax: 0796-23-6538

開園時間: 9:00 ~ 17:00

休園日: 毎週月曜日

(休日に当たるときはその翌日)

12月28日~1月4日

e-mail: kounotori@stork.u-hyogo.ac.jp

ホームページ: <https://satokouen.jp/>

facebookページ: <https://www.facebook.com/satokouen/>

Instagram: https://www.instagram.com/hyogo_satokouen/



HP

FB

Instagram